校内研修計画

松里小学校

**１　学校課題**

昨年度，「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から，これまでの学習活動や教師の支援のあり方について捉え直し，児童が自ら学び方を選択し，「自立した学び手」になることを目指した授業を教師一人一人が心がけて実践することができた。一方、児童の学校評価の結果などからは，「自分で考え，進んで行動する」や「授業に意欲を持って取り組んでいる」ことに課題があることも分かってきた。このように，これからの社会に対応する「生きる力」を育むためには，本校でもこれまで以上に「主体的・対話的で深い学び」を実現する児童の育成が必要になってくると考える。

**２　研究主題**

**『「主体的・対話的で深い学び」を実現する児童の育成』**

**～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた授業づくりを通して～**

**３　主題設定の理由**

1. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から

自分から進んで学び続けようとする意欲や力をもった「自立した学び手」を育成するため，ICTを活用しながら，子どもたちがより主体的に学べる学習活動や教師の支援について捉え直すことで，「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図りたい。

特に今年度は授業のサイクル（課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）に再度着目し、

１時間または１単元の中で、個別最適な学びの場面と協働的な学びをどの場面で仕組み、教師が何を意図して行ったかを紹介し交流することを通して、学びを深めたい。

1. 親和的な学級集団づくりの視点から

　学級集団づくりは，「主体的・対話的で深い学び」の土台となる。豊かな人間関係のある温かい学級で学び，共に生活することが，子ども達の学ぶ力と前向きな意思を育てる。

そのために今年は、学級力向上プロジェクトの取り組みを行う。学級集団の実態を担任が数値で診断するとともに、学級を構成する児童自身が学級の実態をレーダーチャートを使用して視覚的にとらえ、次の改善点を出し合うことで、主体的により良い学級づくりに取り組む児童を育てていきたい。

また、2回のWEBQUを通して実態を把握，分析し，対応策を考え，実施することで，子ども達一人一人にとって居心地の良い学級を目差していきたい。このように，子ども達どうしの信頼に基づいた支え合える関係が土台にあることで，一人ひとりの子どもたちの力が最大限発揮され，さらに対話のある授業を通して，互いに深く学び合う授業をつくることができると思われる。

**４　研究の具体的内容と方法**

〇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた授業づくり

夢をかなえる

学びのプロジェクト

　　　　　　　　　 　　　　　・ティーチャーズノートに関する学習会

・探求的な学びのサイクルを意識した授業研究（11／19ブロック研）

・校内研究チャットを活用した実践紹介

・授業改善

・親和的な学級集団づくり　　　〇確かな学力を育成するための取り組みの継続

　　　　　　　　　　　　　　　・学級力向上プロジェクトの取り組み

・WEBQUと分析の実施

　　　・家庭学習への取り組み

　　　・メディアコントロールチャレンジの取り組み

**５　年間研修計画**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 月　日 | 内　　　　　　容 | 担当者 | 備考 | Ｔ・Ｃ要請 |
| 4/9 | 1. 研究の概要の提案・決定 | 研究主任 |  |  |
| 4/21 | 1. ティーチャーズノートについての学習会   家庭学習の取り組み・ | 研究主任 |  |  |
| 5/14 | ブロック研　講演  （松里研究会代表　土屋幸三先生） | ブロック研 |  |  |
| 5/16 | 教育講演会（ 河村茂雄先生　早稲田大学教授） | 学びのP |  |  |
| 5/22 | 1. WEBQUの分析 | 部 会 |  |  |
| 6/18 | 1. 学級力向上アンケート学習会 | 研究主任 |  |  |
| 6/27 | 教育講演会（ 小川晋先生　高森台中学校） | 学びのP |  |  |
| 7/9 | 1. 講師を招いての学習会   　　道徳　山梨大学　田中一弘先生 | 研究主任 |  | 〇 |
| 8/7 | 1. 講師を招いての学習会   ICT（AI）の活用　加納岩小　古屋達郎先生 | 研究主任 |  | 〇 |
| 9/24 | 1. メディアコントロールの取り組みと   ICTを生かした授業づくり | 研究主任 |  |  |
| 10/15 | 1. ICTを生かした授業づくり   ポスターセッション | 研究主任 |  |  |
| 10/22 | 教育講演会（高橋純先生　東京学芸大教授） | 学びのP |  |  |
| 10/29 | 1. 学級力向上アンケートの考察 | 部　会 |  |  |
| 11/5 | 1. 探求的な学びのサイクルを意識した授業研究   （11/19ブロック公開にむけて） | 研究主任 |  |  |
| 11/19 | ブロック研　授業公開・参観（松里小） | ブロック研 |  |  |
| 12/2 | 教育講演会（赤坂真二先生　上越教育大学教職大学院教授） | 学びのP |  |  |
| 12/10 | ⑪学力調査等の結果を生かした授業改善について  本校のアウトメディアの実態と改善策について  研究紀要について | 研究主任 |  |  |
| 1/21 | ⑫校内研の成果と課題について | 研究主任 |  |  |
| 2/25 | ⑬研究のまとめ | 研究主任 |  |  |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（研究主任　小池　美樹）